

第7回「川の自然再生」セミナー

水辺・まちづくりグループ 研究員 森川 陽一

1. はじめに

平成21年10月1日に第7回「川の自然再生」セミナーを開催しましたので報告します。

この「川の自然再生」セミナーは、平成15年1月に自然再生推進法が施行されたことを背景に、川の自然再生に関する全国各地の取り組みや情報交換の場として開催しているものです。

2. 開催概要

川の自然再生には多くの時間と労力を必要とすることから、地域の多様な主体の参加と連携により持続性を確保していくことがますます重要となっています。今回の第7回セミナーでは、国土交通省後援のもと、『持続可能な自然再生と地域連携』をテーマとして、学識者、行政による実践を踏まえた五つのご講演をいただきました。

- 講演1 持続可能な自然再生と地域連携について
東京工業大学大学院 教授 桑子 敏雄氏
- 講演2 河川環境行政の最新動向について
国土交通省河川局河川環境課 課長補佐 吉田 邦伸氏
- 講演3 石狩川下流当別地区における自然再生について
国土交通省北海道開発局 札幌河川事務所
第1工務課長 鈴木 健治氏
- 講演4 赤川の自然再生について
国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所
工務第一課長 佐藤 信男氏
- 講演5 小さな自然再生のすすめ
兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師
兼) 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
三橋 弘宗氏

3. 講演要旨

講演1では、新潟県佐渡島の天王川を事例に、社会的合意形成とプロジェクトマネジメントの考え方についてご紹介いただきました。地域再生と一体となった自然再生を「ローカル・コモنز(地域社会のしくみにより、地域が持続可能性に配慮して共同管理してきた空間)再生」という概念で捉え、古来紛争の発生源であった河川をローカル・コモنزとして再生するには、住民参加型の合意形成プロセスを含むプロジェクト・マネジメント技術が不可欠であること、また、合意形成の技術は、紛争解決のための技術だけでなく、問題解決のための優れた解決案を探るためのクリエイティブな技術であるとのことでした。

講演2では、河川環境行政の最新動向として、地球温暖化に伴う河川環境への影響と対応、日本の川の環境の変遷、人と水辺・生物とのかかわりの変遷、全国各地の多

自然川づくりの事例等を幅広くご紹介いただきました。

講演3では、石狩川の自然再生の拠点として位置付けている当別地区について、地域連携のためのワークショップの設立、自然観察会、小学校を中心とした自然再生植樹、鳥の専門家による探鳥会などの取り組みをご紹介いただきました。地域連携による継続性を確保していくためには、「みんなが、楽しみながら、将来の環境づくりをやっていく」ことが必要であるとのことでした。

講演4では、山形県を流れる赤川の自然再生について、「在来の多様な生物を育む、赤川らしい豊かな流れの再生」を目標に、「適正な樹木管理等による赤川らしい植生と水際部・河原環境の保全・創出」、「水生生物の生息域拡大に向けた連続性の確保」、「多様な流れの形成による様々な生物が生息できる水域環境の保全・創出」についての取り組みをご紹介いただきました。

講演5では、簡便な技法による川の生態系の回復として、オオサンショウウオの遡上対策、コンクリート3面張り河川でのホタル再生対策、安室川でのチヌジノリ再生対策、加古川上流でのバイカモ保全などを事例に、課題の捉え方と対策へのリンク、生態学的な意義、地域連携の方策についてご紹介いただきました。また、この「小さな自然再生」を次世代の川づくり基本方針や法定計画の河川整備計画などに位置づけできればとのことでした。

4. おわりに

本セミナーでは、多数の方に参加いただき、活発な意見交換が行われました。また、当日実施したアンケートでは、「実践的な話題が多く、面白かった」との意見を多数いただくことができました。

ご講演いただきました講師の方々にご参加いただいた皆様へ厚くお礼申し上げます。

なお、講演内容については、当センターのホームページに掲載する予定ですので、ぜひご覧ください。
(<http://www.rfc.or.jp/>)



セミナーの様子